

施設向け
感染対策レター 第1号
令和2年10月

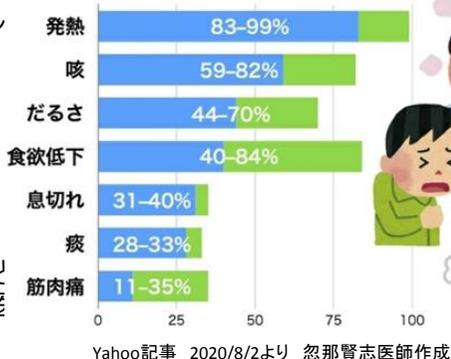
川崎市健康福祉局 感染症対策課 TEL:044-200-2343
Email:40kansen@city.kawasaki.jp

新型コロナウイルス感染症に早く気づくには？

初期症状は風邪やインフルエンザと似ています。右のような症状がみられますが、「微熱のみ」「だるさのみ」の方もおり、症状だけで判断するのは困難です。

ポイントは「いつもと違う」を早くみつけることです。

普段から体調を丁寧に観察し、「いつもと違う」と思ったら、かかりつけ医・嘱託医に相談しましょう。



健康観察のポイント

① 毎日決まった時間にバイタルサインを測定する・記録に残す

- 発熱していないか
- 「咳」「呼吸が早い」「活気がない」といった、いつもと違う症状がないか

② 日常のケア（食事・トイレ・おむつ・入浴など）の中で健康状態を確認する

- 食欲不振や睡眠状態に変化はないか
- 表情や声の調子が違う、活気がない
- 普段よりADLが低下している

③ 個人だけでなく、施設全体を把握する

- 同じ症状の人が施設内に複数人いないか（職員含む）

TOPIC:川崎市内施設利用者・スタッフの感染が複数報告されています

どんなに注意して生活していても、感染することはあります。大切なのは**ひろげないこと**です。利用者だけでなく、スタッフもお互いに体調に注意し、体調不良を感じたら仕事を休み、早めに受診しましょう。「早期の発見」「感染対策の努力」のおかげで、周囲への感染拡大が防げたケースもありました。ありがとうございます。

THANK YOU



感染対策のポイント

感染対策は感染経路を遮断することです。

感染経路を遮断するには、基本となる標準予防策と感染症に応じた予防策（空気予防策、飛沫予防策、接触予防策）を追加します。

感染対策の基本的な考え方

感染しない + 感染させない + ひろげない

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。今回は飛沫感染についてお伝えします。

飛沫感染とは

感染性のある人が咳、くしゃみ、歌唱、会話、呼吸する際に口や鼻から出る飛沫（しぶき）を近くにいる人が吸い込む、あるいは、飛沫が目、鼻や口の粘膜に付着することで感染します。会話の声が大きいほど飛沫量が多いです。

飛沫予防策のポイント

① マスクを正しく使用しましょう

約2m以内で人と接する場合はマスクを着用します。

- 鼻から顎までしっかり覆いましょう
- マスクの表面は汚れているので、使用したマスクは紐をもって外しましょう
- 使用したマスクをポケットに入れるなどはやめましょう
- 食事や休憩中などマスク無しでの会話は避けましょう



咳・くしゃみ・大声・歌は要注意！！

5分の会話で1回の咳と同程度の飛沫が飛ぶよ！！

② 距離をしっかりととりましょう

距離をとる程感染リスクは低下します。最低でも1m、理想は2m空けましょう。特に、利用者さんでマスクを着用できない方は、距離を十分とるよう配慮しましょう。

デイサービスやショートステイの利用者は特にソーシャルディスタンスに気をつけましょう。また、席を固定すると接触の機会が少なくなります！

